

場所・面積	埼玉県 東京都 12.0 ha
管理目的	狭山丘陵の里山環境・オオタカ、フクロウなど希少鳥類や希少両生類をシンボルとして、生物多様性を地域住民等ボランティアと共に保全する。
サイト概要	狭山丘陵は重要湿地・重要里地里山に指定されており、首都圏にあつて、緩やかな丘陵と森・湖・谷戸湿地が織りなす里山景観が残る地域であり、オオタカ・フクロウ・カタクリ等多種多様で希少な動植物が生息している。また、狭山丘陵から流れ出す河川の河畔林やそれに連なって残る平地林は希少な動植物の生息域・移動ルートとなっている。この狭山丘陵地域一帯の自然を守るために、ナショナル・トラスト活動により、当基金が寄付金で取得した自然地在狭山丘陵及びその周辺に2023年3月現在60ヶ所あり、「トトロの森」として多くの市民に親しまれ、ボランティアの皆さんと共に里山管理を実施している。
土地利用の変遷	狭山丘陵は首都圏・東京都と埼玉にまたがり、東西約11km、南北約4km、面積約3500haにわたって広がっている。中央には多摩湖・狭山湖があり、その周囲は東京都の水源林とされ、人の立ち入りが制限されている。水源林外の丘陵部は、都市開発にさらされ、住宅・レジャー施設・資材置き場等に改変されてきた。しかし、開発されず里山環境が残された部分では多種多様な希少な動植物が確認されている。
サイト周辺の環境	元々は里山林として、下草刈りや落ち葉掃き、10～20年毎に萌芽更新作業などが行われていた。また、谷戸は田んぼとして活用されてきた。近年は担い手の高齢化により、放置され、コナラ・クヌギが高木化し常緑樹や笹、竹が侵入している林が増加、田は湿地となり、乾燥化も進んでいる。当法人が取得して管理を開始して、萌芽更新・下草刈りなどを実施した場所では里山で見られる希少な動植物が姿を見せ始めている。田んぼや湿地環境の調査・保全にも努めている。
アピールポイント	レッドリスト指定の植物、ヘイケボタル、キツネ、オオタカ、フクロウ等各種希少動植物が生息している。トトロの森の自然環境調査を行い、毎年自然環境調査報告書を発表している。地域住民や市民と共に里山管理作業を行っている他、一般向けにトトロの森の自然に親しむガイドツアー等を実施し、環境学習の場としても活用している。



## 生物多様性の価値

## 価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

## 【選定されている制度名】

環境省 重要里地里山「狭山丘陵全体」

環境省 重要湿地「狭山丘陵周辺の湿地」

## 【選定理由や内容】

## 重要里地里山

▶武蔵野台地のほぼ中央に位置する面積約3,500haの丘陵地であり、多摩湖および狭山湖を中心に、雑木林と谷戸が入り組んだ里山生態系が広がっている。4つの大規模な都立公園（狭山公園、八国山緑地、東大和公園、野山北・六道山公園）と北山公園を含む。

▶縄文時代から人との関わりがみられる地域であり、雑木林、ため池や湿地、小川、水田などを含むモザイク状の土地利用が維持され、武蔵野の里山が昔ながらの姿で残されている。メダカやホタル、トンボが生息する里山本来の生物相が保たれているとともに、豊かな里地里山生態系のシンボルであるオオタカの生息も確認されている。

## 重要湿地

▶希少トンボなどの生息地



写真の撮影年月：2021年6月25日  
写真の説明：雑木林と谷戸・水田



写真の撮影年月：2020年5月20日  
写真の説明：湿地



## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

- ・ 里山林や谷戸・湿地、草地等から成るモザイク的な里山環境が形成されている。

## 【主な植生】

- ・ 主な植生は、コナラ・クヌギ林である。

## 【確認された主な動植物】

以下のとおり、それぞれの生息地に特徴的な種の生息が確認されている。

**里山林：** オオタカ（学名：Accipiter gentilis, 成体）等希少鳥類  
カタクリ（学名：Erythronium japonicum）等希少植物

**湿地：** ヘイケボタル（学名：Luciola lateralis, 成虫・幼虫）  
アカガエル類等希少両生類・水生生物 等



写真の撮影年月：2022年3月

写真の説明：里山管理により復活したカタクリの群生



写真の撮影年月：2016年7月10日

写真の説明：湿地のヘイケボタル

## 生物多様性の価値

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

## 【場の概況】

豊かな里山環境（里山林・谷戸湿地）に多様な希少種が確認されている。

## 【確認された希少種】

## 里山林：

オオタカ（学名：Accipiter gentilis）環境省準絶滅危惧（NT）埼玉県絶滅危惧Ⅱ類（VU）

（成体）（2022年1月）等環境省及び埼玉県レッドリスト指定の希少鳥類

カタクリ（学名：Erythronium japonicum）埼玉県準絶滅危惧（NT）（2023年3月）

等環境省及び埼玉県レッドリスト指定の希少植物等

## 湿地：

ヘイケボタル（学名：Luciola lateralis）埼玉県準絶滅危惧（NT1）（成体、幼体）（2022年6月）、アカガエル類等希少両生類・水生生物



写真の撮影年月：2018年1月

写真の説明：オオタカ



写真の説明：ヘイケボタル

## サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><b>【管理計画の内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>希少な鳥類等が確認された地域では自然度の高い環境を維持し、生息状況調査を実施。</li> <li>里山林においては、年に数回間伐や下草刈り・外来種の駆除等を行い、希少植物(カタクリ他レッドリスト指定植物等)が生息する環境を維持する。また、モザイク状に萌芽更新作業を実施し、草地～低木林～若齢林の多様な環境を創出すると共に森の若返りをはかる。</li> <li>河畔林においては餌となる有機物の供給のほか、日射遮断、隠れ場形成など生物の生息場の保全、水質浄化といった多機能性を保全することを目的に、現存環境を維持する。</li> <li>湿地では外来種の抜き取り・水の溜まり場などを作り、水生生物の生息に適した環境を維持する。</li> </ul>	<p><b>【モニタリング対象】</b></p> <p>里山林：カタクリ等希少種調査・ナラ枯れ状況調査          湿地環境：ヘイケボタル等</p> <p><b>【モニタリング場所】</b></p> <p>各トトロの森で調査を行う</p> <p><b>【モニタリング手法】</b></p> <p>希少種生息状況確認調査を行う</p> <p><b>【実施時期及び頻度】</b></p> <p>それぞれの希少種が確認される時期に行う</p> <p><b>【実施体制】</b></p> <p>トトロのふるさと基金調査部会による調査を中心とし、各管理協力団体とも協力して希少種の確認を実施する。</p>